

月刊

地球が与えてくれた贈り物を大切にリサイクル社会の実現をめざしたい

No.107 2003. 8

<http://www.recycledesign.or.jp>
Eメールmail@recycledesign.or.jp

リサイクルデザイン

特集

知っていますか? ~センターリサイクルへ

● 教えて、聞かせて「サポーター's ミーティング」 P3



● サポーター募集・環境絵日記 P8

● リサイクルデザイナー P6

● エコ・スポット「南区・秋栴の会」

Kids Eco cooking

P7

本誌リサイクルデザインに折り込まれているよこはま白書。ここに「リサイクル掲示板」が掲載されているのを見た人も多いと思いますが、そこに載っている「センターリサイクル」ってなんだか知っていますか？

※
泉区から始まり、瀬谷区、神奈川区、旭区の4区で環境事業局やボランティアとリサイクルデザイナーが手を組んで行なっている資源回収の拠点、それがセンターリサイクルです。ここでは集団回収でおなじみの新聞紙、ダンボールはもちろん、現在、市の資源回収で集められていない古着・古布やリターナブルびん、白色トレーなども回収しています。そして7月から新しく青葉区でもこのセンターリサイクルが始まりました。平成22年度から始まるごみ減量作戦G30の布石ともいえるセンターリサイクルの現状と、これからを追ってみました。

※リサイクルデザイナー（回収業者、古紙問屋、びん商などリサイクルに携わる横浜市資源リサイクル事業協同組合員のことです。）



行ってきました。

かながわセンターリサイクル



▲荷物を運ぶエコライフかながわのボランティア

定着している エコライフかながわの活動

準備に1年半かけて2年前の平成13年から月1回、第2日曜日にごみの減量化と、集団回収のない地域に資源回収を根付かせる活動として始まりました。神奈川区の反町公園で地域のボランテ

ィア団体「エコライフかながわ」の主催で行っています。ボランティアは地元の人や学生、約80名で構成されています。

6月8日（日）神奈川区役所側の道路に沿った公園敷地内に古着や古布を載せる2トン車と新聞、雑誌、ダンボールを載せる2トン車が止まり、エコライフ

かながわの黄色いのぼりがはためきます。そこへ朝10時から次々と車が横付けされ、束ねた古新聞や古着の入ったビニール袋が下ろされます。それをボランティアやリサイクルデザイナーが手渡しで受け取り、トラックへと運びます。

エコライフかながわのボランティアに話を聞きました。

「捨てるのがもったいなくて…」 リピーターが多く毎回200組ほどが来場する。

「ここに資源物を持ちこむのは40、50代の人が多いですね。一番環境やリサイクルに関心がある年代なのかもしれません。だいたいリピーターで月1回の回収日に200組ほど来場します。家族でどこかに出かける前にちょっと寄って置いて行くとか。回収量は新聞・雑誌などの古紙が1トン～1トン半、衣類は4、5、9、10月の衣替えの時期が多く2トンにもなります。量は始めた当初とそれほど変わりませんが、集団回収に比べると禁忌品の入る量は少なくなりました。それはやはり持ち込む人たちと直接話しをするので『これは資源回収できないんですよ』とコミュニケーションできるからではないでしょうか」

自転車で古着の入ったビニール袋を持

ってきた小学校6年生の男の子は、「月に1度、毎回来ています。いつもは車で来ているんだけど、今日はお祭りだから

通行止めになっていて車で来られなくて…」ですって。

悩みは情報を知らせる時間が少ないこと

運び込む荷物の重さからでしょうか？圧倒的に車で来場が多いようです。とはいっても公園脇の道路は駐車禁止。特別に車を止めることを許されているとはいえ、停車して荷物を下ろして発進するまでほんの数秒です。

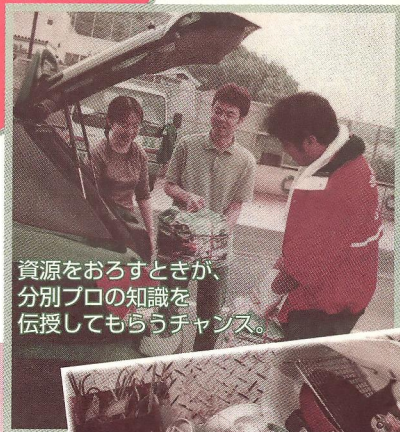
「この場所での悩みは、ほんの少しの時間の中で資源回収に関する情報をお知らせしなければならないということ。もっと地域の皆さんとごみの減量と資源化について話せる場になればいいと思っていますのですが」とリサイクルデ

ザイナー。

「あ～よかった。間に合った」もうそろそろ終わりかと思う時間に駆け込みで古着を持ち込む人がいました。「捨てるのがもったいなくて…」その気持ちがリサイクルへの第一歩です。

この日は終了時間までに新聞・雑誌などの古紙が1トン。古着などが2トン。白色トレーが300枚。牛乳パックが400枚。アルミ缶が60個収集されました。

サイクル～



資源をおろすときが、
分別プロの知識を
伝授してもらうチャンス。

青葉センターリサイクルでは、
小物金属も扱っている。

青葉センターリサイクル

初日はあいにくの雨模様

始まりました。

7月6日(日)あいにくの小雨の降る中、初めて青葉区でセンターリサイクルが行なわれました。開催された環境事業局青葉事務所の駐車場はとても広く、ここでは環境事業局、リサイクルデザイナー、市民ボランティアが手を組んで始めました。

天候のせいか、出足は今ひとつ。それでも来場する車に向かって「おはようございます」「ありがとうございます」スタッフの声が大きく響きます。来場した方に話を伺いました。

「地域に集団回収がないんです。前に住んでいたところでは雑誌など、集団回収に出していたのでごみに出すのは抵抗があって。区報でセンターリサイクルのことを知って来ました」

「区のファイバーリサイクルで渡されたチラシで知り、今日は古新聞を持ってきました。いつもは子供会に出しているんですけど、出しそびれて溜まっていたのでちょうどよかったです」取材をしていると「冬物の衣料も出せるんですか？」の質問。さっそくリサイクルデザイナーの出番です。「ここでは試験的に受け入れています。汚れたり、破れたりしていなければ大

丈夫ですよ」の答えに「またぜひ利用したいです」と、にっこり。

青葉センターリサイクルでは、広い場所で車を止めて話ができるのがメリ

ゆくゆくは「リサイクル情報発信の場所」に

「G30の資源分別回収が本格的に始動する前に、少しでもごみ減量になるようセンターリサイクルを利用してもらいたいというのが基本です。でもここではただ『資源を回収する場所』というだけでなく、多くの人にごみの減量につながるリサイクルのことを知ってもらい、正しい知識を持ってもらう『リサイクル情報発信の場所』にしていきたいんですよ。大人はもちろん、子ど

ット。市民とのコミュニケーションが十分に取れそうです。

もたちにも。そのため、将来的には子ども向けのリサイクル教室やリサイクルのパネル展示などのイベントも考えています。G30が始まった時、すぐに市民のみなさんがきちんと資源を分別して出せるようになったらいいなと。ここに来ればリサイクルのプロがいて、いろんな情報を教えてくれるとみんなに知ってもらえたらと思います」とはリサイクルデザイナーの話。

G30に関する分別収集の質問コーナーも設置したい

子どもたちにも知らせたい。会場でリサイクルに関するチラシを配るピンクのうさぎのぬいぐるみもその活動の一端でしょうか。わざわざ車から降りて握手をする子どもの姿も見られました。

9時半から始まり、12時に終了。途中からは雨もやみましたが、環境事業局の人は。「本来は地域の集団回収を利用して資源回収をするのですが、集団回収がないところやあっても知らない人たちにセンターリサイクルを利用してもらえたらと思います。いまだに

資源となるものがごみに出ていることもあるのでそういったものが減っていけばいいですね。ゆくゆくはG30を念頭に置いた分別収集の質問受け付けコーナーなども設置していきたいです。今日は来場者が少なく残念ですが、周知を行きわたらせてもっとリサイクルを進めていきたいと思っています」と話していました。

まだ始まったばかりの青葉センターリサイクル。これからの催しに注目！です。

センターリサイクルは、 リサイクルコミュニケーションの場です。

資源を回収する方法には市の分別収集や地域で行われる集団回収などがあります。今回紹介したセンターリサイクルも資源回収の1つの方法です。しかし、ほかと違うのは回収場所に出しておけば誰かが勝手に回収してくれるのではなく、リサイクルデザイナーと直接話しをして手渡しできるということ。

そこでのコミュニケーションは、私たちが普段「これは資源回収に出せるのかな？どんな分別方法で出せばいいんだろう？回収されたものはどこにいくのかな」などの疑問や質問に答えてくれる場でもあるのです。

センターリサイクルにかかわる横浜市資源リサイクル事業協同組合では、

今後この『リサイクル情報発信の場』としてのセンターリサイクルを全区に広げたいと考えています。

忘れちゃならないのはごみとして出すものを分別し、資源回収して減らすことはもちろん、資源として回収に出す量も減らすこと。「資源回収に出せるからいいわ」と大量に必要でないものを買い込むのはリサイクル道に反すること！…ですよね。そこをふまえてセンターリサイクルを上手に活用しましょう。



リサイクルデザインサポーター'S ミーティング

初めての顔合わせにドキドキ

本誌104号でお知らせした初の“リサイクルデザインサポーター'Sミーティング”が、6月22日午後2時からフォーラム横浜国際ラウンジ（横浜ランドマークタワー13階）で開催されました。100号発行の記念を兼ねたこのイベントに愛読者30名が集まり、リサイクルにそそぐ情熱を熱く語り合ってくれました。梅雨の晴れ間が広がる午後のひととき、間近に見える観覧車とその向こうの水色の空が、まるでエールを送ってくれているようでした。

非拡大成長時代に即したG30

全員が4つのグループに分かれ“横浜市民としてG30にどう取り組んでいくか”“G30について横浜市に望むこと”というふたつテーマのうち、どちらかひとつを選んで話し合うことになりました。まずはなぜ今、これまでの焼却からいきなり細かい分別へと路線が変わったのか、について、環境事業局の家庭系ごみ対策課・福山課長に説明してもらいました。「市の人口は、これまで増加の一途でしたが、2006年以降は減少の見込み。人

が減る、すなわち消費も減りごみも減る。現在は、拡大成長から非拡大成長への転換期なんですね。また、焼却熱や排気ガスによる地球温暖化、生産者責任を問う社会的コンセンサス、などを総合的にとらえ、こういった時代に即した政策が必要になりました。そのひとつが、ごみの削減を目的とする細かい分別、ということなんです」



▲時間を大幅に延長。でも、まだまだ意見は尽きません。今回参加しなかったアナタも、次回（未定です、あしからず）はぜひおいでくださいね。

意見続々、スタッフたじたじ

平成22年度におけるごみの排出量を、13年度に対し30%削減しようというG30について、反対する本誌サポーターはもちろんいません。しかし、それぞれの経験にもとづく意見や要望、提案がありました。

●本誌を読んで古新聞やちらし以外の紙もリサイクルできることがわかり、まさに目からうろこだった。こんな私でも近所の人からはリサイクルに詳しいと思われるぐらいだから、もっとPRが必要だ。

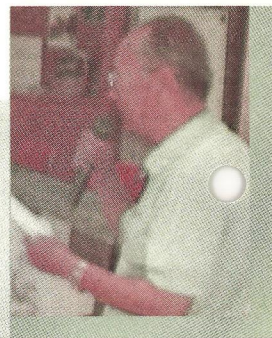
●市によっては、年に何回か市民がごみ収集車に乗って実際に収集を体験できるところがある。横浜市でも以前はできたとも聞かすが、どうなのか。実際に作業してみると、分別の必要性や集積場所の清潔度について、より親身に考えられると思う。（後日、市に問い合わせたところ「特に制度はないが、目的や理由などを伝えれば、その都度審議し可否を決定する」とのこと）

●出された物がどんなふうにもリサイクルされているのかとか、分別が徹底できていなかったためこれだけのものが結局埋め立てられた、というような情報もほしい。

●G30について知らない人はまだとっても多いし、それ以前に現在の大まかな分別さえ、ほとんどできていないことも。できない理由はモラルがなってないからばかりではなく、知らないからとも言える。収集車の放送で「埋め立て地がもうすぐ満タンになりますよ」と言ったり（笑）、ケーブルテレビなども利用してPRを。

●自分が知っていることをまず自分のとりにいる人に話す、ということから始めよう。コミュニケーションが大事。学校のカリキュラムに加え組合の出前講師など、子どもたちへの環境教育は熱心にされている。子どもが親に伝えられるぐらいのわかりやすい情報がいい。

●環境絵日記は、ストレートに訴えかけてくるものがある。子どもの素直な声は大人を動かす大きな力になるから、過去の作品を誌上でもっと紹介してはどうか。



みなさんスゴイ、おみそれしました。圧倒されたままお開きではナンなので、最後は組合の中野聰恭会長が締めることにしましょう。

「様々な見方がありますが、G30というのは子が先か親が先かとか、行政が先か市民が先か、ということではなくて、とにかくやらなければならないことはやる、という姿勢が大切なのだと思います。サポーターのみなさんはそのリーダーとして、ぜひ、がんばっていただきたいです」

朗報!

過去5年間で初めて 横浜市のごみの量が、減りました。 (平成14年度)

横浜市では、平成10年度～14年度の過去5年間のうち、13年度まではごみの収集搬入量（市内の家庭や事業所から、市の施設に搬入されたごみの総量）が増え続け、平成13年度には、とうとう166万2千トン（横浜ランドマークタワー12杯分）を超えてしまいました。

平成7年度から、行政によるびん・缶の分別収集を実施した後もごみは増え続け、このまま増え続けると、ごみを焼却処理し

た後に発生する焼却灰などを埋立処分するための最終処分場（市内2カ所）が一杯になるのではないかと、心配になるほどでした。ところが平成14年度の収集搬入量は、約163万8千トンで、平成13年度に比べると約2万4千トン（1.45%）減少しました。（グラフ参照）

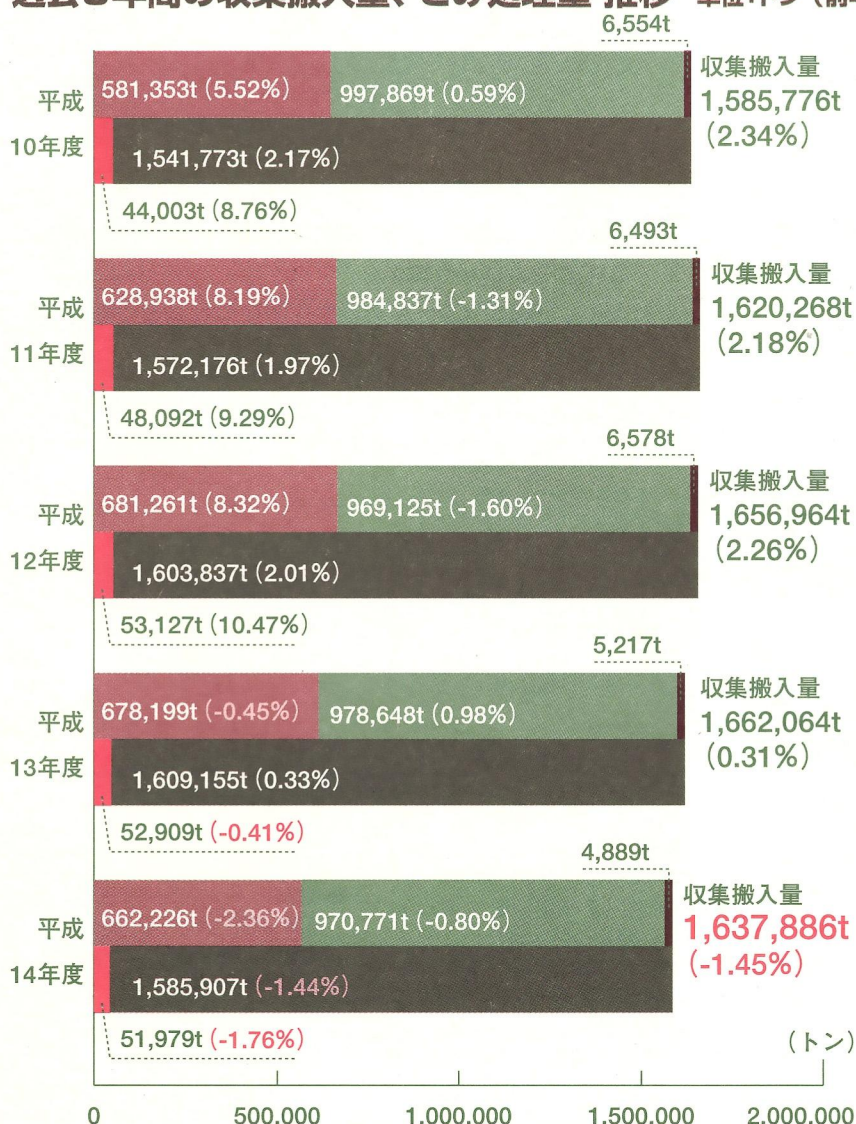
収集搬入量とは、ごみ排出量（ごみ焼却工場で焼却されたごみの量＋最終処分場で直接埋め立てた量）と資源化量（資源

として再利用・再生利用される量）の合計です。

平成14年度のごみ排出量は、約158万6千トンで、これは平成13年度に比べると約2万3千トン（1.44%）減少しています。過去5年間のデータでは初めての減少でした。

今後とも、横浜G30プランに基づき、ごみの減量化、資源化を市民、事業者の皆さんと一緒に進めましょう。

過去5年間の収集搬入量、ごみ処理量 推移 単位:トン (前年比:%)



「収集搬入量」 「資源化量」 「ごみ排出量」とは…

●「収集搬入量」とは…

家庭ごみをはじめとする横浜市が収集したごみの量と、許可業者等が収集する、事業系ごみの量を合わせたものです。

●「資源化量」とは…

「資源となるもの」から資源化に適さないもの（異物など）を取り除いた後の、実際に再利用・再生利用することのできるものの量です。

●「ごみ排出量」とは…

「収集搬入量」から「資源化量」を引いたもので、全量が焼却もしくは埋立処分となります。

事業系ごみ 家庭系ごみ その他

資源化量 ごみ排出量

今年の夏から ライフスタイルを見直そう

28℃は環境温度

27

28

29

温暖化が地球の環境破壊を進めている元であることは、すでに周知のとおりです。その温暖化は、私たちの生活が急激に電化されたことも一因になっています。

●神奈川県、横浜市からの提案

今年の夏は、原子力発電の停止により、首都圏の電力不足が危ぶまれています。電気を利用している私たちも創意工夫により、積極的に節電に取り組むことが重要です。

また、これを機に「暑さを冷房でしのぐ」暮らしから、「夏は夏らしく過ごす」暮らしに、ライフスタイルを見直していきたいと考えています。

そこで、横浜市では、神奈川県等と共同して、次の事項に取り組むことにより、ライフスタイルの見直しを、全国に向け発信していきます。

●取組の内容

(1) 県および市が「夏のワーキングスタイル」を実践します。

●夏のワーキングスタイル

・冷房温度 28℃ ・軽装での執務

●実施期間

6月22日(夏至) から9月23日(秋分) まで

(2) 県・市民、事業者、自治体等に「夏のワーキングスタイル」の実践を呼びかけます。

(3) 新しいライフスタイルの提案を市民や事業者に呼びかけます。

○リサイクル掲示板○

センターリサイクル

●8月2日(土)

・センターリサイクルinせや

瀬谷区 ニツ橋公園

時間：午前9:00～12:00

※雨天中止、車で搬入可

回収品目

新聞紙、雑誌、段ボール、紙パック、古着、古布、毛布

問い合わせ

環境事業局瀬谷事務所
TEL 364-0561

●8月3日(日)

・青葉区センターリサイクル

環境事業局青葉事務所裏駐車場

時間：午前9:30～12:00

※雨天実施

回収品目

新聞、雑誌、雑紙、段ボール、牛乳パック、繊維類、小物金属、リターナブルビールびん

問い合わせ

環境事業局青葉事務所
TEL 975-0025

●8月3日(日)

・泉区センターリサイクル

環境事業局泉事務所構内

時間：午前9:00～12:00

※雨天実施、車で搬入可

回収品目

新聞、雑誌、段ボール、紙パック、

古着、古布、毛布、カーテン、着物、酒びん、ビールびん、アルミ缶、スチール缶、小物金属

問い合わせ

環境事業局泉事務所
TEL 803-5191

●8月10日(日)

・かながわセンターリサイクル

神奈川区 反町公園

(神奈川区役所側)

時間：午前10:00～午後1:00

※雨天実施

回収品目

新聞、雑誌、段ボール、牛乳パック、古着、古布、白色トレイ、リターナブルびん

問い合わせ

エコライフかながわ
TEL 413-3196

●8月17日(日)

・旭区センターリサイクル

環境事業局旭工場内

時間：午前9:00～12:00

※雨天実施

回収品目

新聞、雑誌、段ボール、紙パック、繊維類、リターナブルびん、アルミ缶、スチール缶

問い合わせ

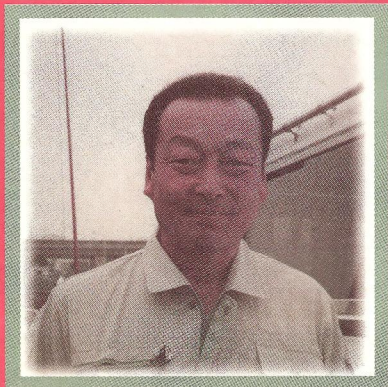
環境事業局旭事務所
TEL 953-4811



有限会社エムイーアイコマツ

小松敏和さん

今回は、小松さんが忙しい仕事の合間をぬって一日一回は訪れるという八景島近くのマリーナでの取材です。当日はあいにくの梅雨空でしたが、爽快な八景島のロケーションにぴったりな小松さんにお話をうかがいました。



プロフィール

1949年（昭和24年）横浜市金沢区生まれ、54歳。父が始めた鉄くず回収の家業を引き継ぎ、現在は工場プラント解体などの廃棄物処理業を営む。クルージング、ゴルフのほか多才でボーリングはプロに勝ってしまうほどの腕前。妻、一男一女、両親の6人家族。

人との付き合いを大切に。 海で過ごす時間が最高

「人生って何かと考えたとき、仕事も全て
思い残しちゃいけない。全て徹底的にやる」

「鉄くず」回収の家業を継いで、父との二人三脚で仕事を展開し、現在は工場プラント解体・廃棄物処理など忙しい毎日を送る小松さん。実は元々パイロットをめざしていたといいます。転職が訪れたのは、大学2年生の時のこと。父が突然病気で入院したのです。」「親父の手伝いをしながらその姿を

ずーと見てきたので、ほっておけなかった。夢を追いかけるのか…。家を守らねばと思い家業を継いだんです」

つらいと思ったことは？「仕事そのものでは、つらいと思ったことは一度もないんですよ。ただ唯一つかったのは、一時期仕事のやり方で父との間で葛藤があったことですね」

海で過ごす大切な時間。「人を裏切らない」ことがモットー

「幼い頃から海のそばで育ったので、海に来ると落ちつくんです」休日には愛用のクルーザーで大島や神津島までも出かけていきます。人との付き合いを大切にしている小松さん、クルーザー仲間はもちろん、プロ野球や異業種のたくさんの方の友人がいます。これまでの人生で印象に残り今でも役に立っているのが、25歳の時「県の青年の船」に同乗した元全日本バレーボール監督松平監督とたくさん語り合った時のこと。海を人生と仕事にたとえて

「海は刻々と変わる、商売も同じ。環境に応じた対応が必要」海から人から多くのことを学んできました。

子どもたちが幼い頃、貴重な休暇を取りホテルを予約しても子どもが熱を出してキャンセルすることが度々。そこで思い切ってキャンピングカーで北海道へ出かけて以来、家族で全国ほとんどをキャンピングカーで回ったということもさりと話す小松さん。

リサイクル業界のこれからの展望は？「むずかしいですね。廃棄物業に关していえば最終処分場が無くなってきているし、転換期だと思いますよ。多種多様な人たちと付き合いヒントをみつけ動いていく時代だと思います」23歳の息子も大学卒業後、自然と後を継ぎ一緒に仕事をしています。頼もしい仕事仲間が増えました。



びっくり その1

リサイクルボーイ・トイレトペーパーは、ごみが出ない芯なしロール。しかも専用ホルダーではなくふつうのホルダーで使えます。

びっくり その3

再生紙なのにソフト。バージンパルプのティッシュよりお肌にやさしい！愛用者の某リサイクルデザインの関係者いわく、「ティッシュを使うと鼻の下がごわごわになるのに、このトイレトペーパーだと大丈夫なの」（実話です）。

トイレトペーパーは再生紙があたりまえ。
だってトイレに流しちゃったら再生できないんだから。

リサイクルボーイ トイレトペーパー



★使ってびっくり

びっくり その2

手にするとずっしり重い。それもそのはず、ふつうのトイレトペーパー（シングルで60m）の2倍以上の長さ（130m）です。「使っても使ってもなくなるんですよ」との声も寄せられるほど（もちろんいつかはなくなるけど）。

注文受付は1ケース（48コ入=6コ入りバック×8）より
1ケース 3,360円（配送料込み）

※消費税・振込料はお客様のご負担をお願いします。

事業所、学校等はもちろん、お友達と分け合ってもお得！

●ご注文・お問い合わせは
横浜市資源リサイクル事業協同組合
電話 045・316・4050 FAX 045・316・6050

シングル芯なし130メートル1パック（6ロール）あたり価格420円

私たちの手で、コスモスの花いっぱいの町に

秋桜と書いてコスモスと読むこの会は、消費生活推進委員の地区代表をつとめあげたOB有志が集まって作りました。活動は今年度で2年目。エコライフをテーマに、再生品や古い物、不用品を再利用する手作り品の講習会や、ごみ処理関係の施設見学などを、年度内に8回主催する計画です。6月25日には、南区役所会議室で最初の企画であるリサイクル講座を開きました。講師は、当組合員の武松昭男さんです。

分別マークのこと、ダイオキシンのこと……

参加者は、秋桜の会の会員を含む一般市民39名。ごみ問題について知識豊富な人、関心はあるけれどあまりよくわからない人、さまざまです。まず、予備知識の確認として組合制作のビデオ『未来を生み出すリサイクル』を見たあと、講座開始です。



熱く語る武松さん。わかりやすい話にしようと、下調べにも力を入れたとか？

武松「みなさんが小さかったころ、ビデオにあったよ

うなリサイクルは当然やっていましたよね。今も、きっとみなさんはできることはちゃんとやってくれている。でも、ごみの量は

減らず、リサイクル率はなかなか上がりません。事業者のひとりとして言わせていただきますね。私たちはこれ（一枚の紙を手）にごみとは思いません。原料なんです。なぜ細かく分別するのか、それは、資源として有効に再利用するためです。たとえば、食品トレーの裏にいくつかの記号があるのをご存知ですか？

参加者A「エーッ、知らなかったわ」

参加者B「そう？ 私は知ってた」

武松「プラスチックにもいろいろあって、表示には7種類あります。あまり細かいことはいいんですが、少しずつガンバって分別の知識を深めてください。それから、ダイオキシンや環境ホルモンについて知った

いとのことですが、どちらも、はっきり言って詳しいところはわかっていないようです。研究者も、言うことは十人十色。永年の蓄積がなければ人体への影響はないなどと言われますが、やはり、不安はぬぐえな



区の広報の締め切りに間に合わなかったため、会員のクテコミで集まった人たちが多数。うなづいたリメモを取ったり熱心です。

Kids Eco cooking

田所 仁美



夏休みが始まります。予定を立てて、充実したお休みにしたいものです。まだ、夏の自由課題が決まっていなければ、是非、食から考える、エコロジカルライフをテーマにしてみても、いかがでしょうか？キッチンでお料理をする過程には、多くの環境問題が見えてきます。買い物に始まり、調理中、後片付けまで、身近な生活の中に、すべきことが、たくさんあります。チャレンジしてみてください。



1) お買い物にはマイバックを持参してください。

2) 食材選びは、できるだけまるごと食べられる安全なものを選び、買いすぎには注意しましょう。

3) 調理中、食べられる部分まで、ごみにしていませんか？上手に調理しておいしくいただきます。



4) 火加減に気を配り、鍋底から炎がはみ出していないか、確認してください。

7) 野菜を洗うとき、歯ブラシを利用したり、汚れた食器類、調理器具を洗うとき、ゴムベラや新聞紙を使って、油分をふき取ってから、洗います。これは、できるだけ、洗剤の使用を減らし、環境にやさしい、たわし類を利用して洗い物をします。洗剤の代わりに、米のとぎ汁、麵のゆで汁を利用することもお勧めです。

5) 水のムダ使いはしていませんか？

6) 茹でる順序を工夫することで、省エネCookingを心がけてください。例えば、野菜を茹でるとき、アクのすくないものから、茹でることで、水やガスエネルギーの節約ができます。



8) もし、お料理が食べきれず、残ってしまったら、上手に保存して食べられるようにしますが、このとき、冷蔵庫に入れて、うっかり忘れてしまうことが、よくあるようです。日頃から、冷蔵庫の整理整頓に心がけ、消費期限のチェックも忘れずに！

9) お料理が完成したら、どんなものが、ごみとしてでたか、チェックしてください。食べられる部分があれば、次回、それをテーマに料理法を考えてみましょう。また、資源ごみについても、買うときの工夫について、見直しをしてみてください。

10) 最後に、感謝の気持ちで、楽しく、おいしくいただきます。



いですよね。何か問題が起きてからでない
と動かないのが日本社会ですから。でも、
あれもだめ、これもだめでは暮らせないで
すから、私たちにできることは何かを考え
なくては。単純なことです、少しでもごみ
を減らすこと、それしかありません」

参加者C「いい勉強になりました」

参加者D「でも、生活するのがいやになっ
ちゃった」

武松「おっと、おどかすつもりはなかった
のになあ（笑）」

そんな和やかな雰囲気の中、お開きと
なりました。



7/8月の講習会で作る「再生紙でできた紙テープで
編んだかご」。色を塗ったり、中に布で内袋を付け
たりすると豪華さが増します。9月は着物リフォー
ム教室、11月には古布の縫いぐるみと根付け作り、
来年1,2月にはやはり古布の袋物を作ります。

地域で地味な活動を

消費生活推進委員のOBが自主的に生
涯学級として再スタートを切ったのは、
この秋桜の会が市内第一号なのだそう
で「これは、自負できるんですよ」と
代表の関口より子さん。これまでは行
政に従っていけばよかったけれど、い
ざ自分たちですべてやるとなると想像
以上にたいへんとか。「でも、自分たち
が本当にやりたいことをできるんですよ。
意思の疎通もすんなりできる関係だし」
と笑顔を輝かせる会員たち。助成金も
何もないので、フリーマーケットなど

も主催して資金集めに奔走しますが、
その「あがり」で何をするかといえば…。
半額は社会福祉協議会に寄付し、残り
は町の美化に遣うのです。プランター
を買って自分たちで作ったコスモスの
花の造化をあしらい、ごみの不法投棄
に悩む場所をきれいにそこに置く、
そんな地道な活動を長く続けていくの
が会の目的。知っていること、できる
ことを生かし、地域に、地球の環境問
題に貢献していきたいと考えるパワフルな秋桜の会、今後の活躍が楽しみです。

リサイクルデザインサポーター 協力会員募集!

●横浜市資源リサイクル事業協同組合

(リサイクルデザイン発行母体)では、協力会員(通
称リサイクルデザインサポーター)を募集しています。
リサイクル・環境教育・街づくりに関心のある方、自然
環境との共生にお知恵のある方。リサイクル情報誌「月
刊リサイクルデザイン」を通じて、リサイクル問題の
現状や、「循環型都市よこはま」づくりについて、一
緒に考え実践していきたいと考えています。
リサイクルデザインサポーター登録の方へは、組合イ
ベントのご案内や情報誌「月刊リサイクルデザイン」
を毎月無料で送付いたします。

●申込方法

お申込は、FAX・メール、またはお電話で、下記資料請求先へ
1.ご住所 2.お名前 3.電話番号 4.「リサイクルデ
ザインサポーター申込希望」とご明記下さい。折り返
し申込書をお送りいたします。

●資料請求先

横浜市資源リサイクル事業協同組合

電話 045-316-4050

FAX 045-316-6050

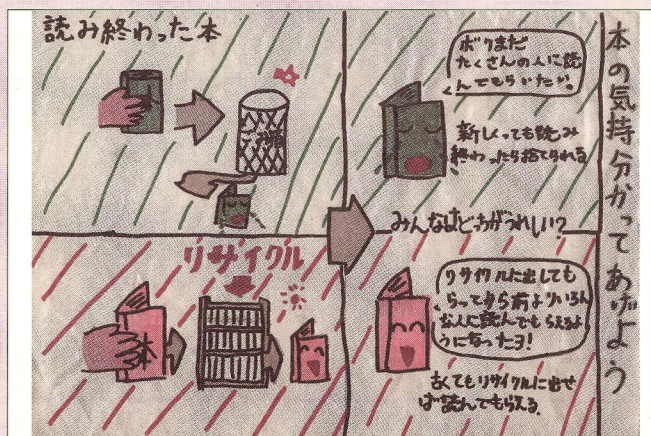
Eメール mail@recycledesign.or.jp

●参加資格・条件

1. 横浜市内にお住まいの個人および団体(集団
回収実施団体・市民団体など)の方
2. 私たちの活動をご理解、ご支援していただける方
3. ご本人の入会意思と、正組合員の推薦
4. 脱退は原則自由です
5. 入会金や年会費はありません

環境絵日記

2002年第8回リサイクルデザインフォーラムの
環境絵日記入賞作品を随時月刊リサイクルデザ
イン誌上でご紹介していきます。



矢部小学校 6年 佐藤さつき
7月20日 土曜日 天気 晴れ
私は、この日とても暑かったので図書館へ
行きました。図書館で気に入った本をかりた
あと外へ出る。『自由にお取り下さい。』
と書かれてある本だなを見つけた。それ
は、なにかと見ると、リサイクルの本だな
でした。それを見て思いました。本をすて
るのなら、リサイクルの場所に置いて、たく
さんの人に読んでもらう方がよいと思いま
した。そして一人が気をつけるだけでみんな
がよくなる。私はそう思いました。これを短い
言葉で表したいと思います。『一人はみんな
のために、みんなは一人のために。』みんな
でこのゆづきかいをふやし、どんな物を
おだにしないリサイクルを進めていってほしい
と思っています。そうするためにはまず自分
から進まなくちゃいけない。そう思います。

牛乳パックから生まれた紙ひも



こむすび
山結くん

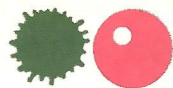


で
古紙をしばればまるごとリサイクル

1巻きの長さ90m		価格	送料
バラ売り		1巻250円	1~6巻400円 7巻~ 600円
箱売り (1箱50巻)	1~9箱	1箱11500円 (1巻230円)	価格に 含まれます
	10箱~	1箱 9500円 (1巻190円)	

お申し込み 横浜市資源リサイクル事業協同組合
お問い合わせ TEL045-316-4050 FAX045-316-6050

山結くん販売場所／●横浜市金沢区・緑区・中区・都筑区
の区役所売店 ●グリーンバザール(南区) ●ブックショップふ
れあい戸塚店(戸塚区ダイエー横) ●大船店(鎌倉市小袋谷) ●
コミュニティストアすすきや(戸塚区) ●エコロジーショップエ
ッセンズ(中区) ●御菓子処おきな堂(神奈川区) ●村松商店(鶴
見区生麦4-10-17) 販売してくださるお店募集中!



RECYCLE Design

リサイクルデザインのロゴマーク

2つの円形は血管を表しています。右の赤い円形が動脈、左のにじんだ円形が静脈。私たちは、産業全体の中の静脈部分を扱っていますが、静脈の正常化だけでなく、動脈の正常化も同時に目指していきたいと考えます。

●リサイクル標準価格表

2003年6月現在
日経6/26

品名	買入価格 1キロ当たり	業者の売値 1キロ当たり
新聞	*** 0円	5~6.5円
雑誌	** 0円	2.5~3円
段ボール	** 0円	3~3.5円
衣類くず	** 設定不能	0~1円
アルミ缶	**** 10~15円	

* 集団回収には「買入価格」を適用 ** 有料
*** 有料の場合あり **** スチール缶と選別済の価格
★ 500キロ以上集団回収する団体の適用価格です。
取引条件により多少変化します。
★ 事業所から発生したものは集団回収の対象になりません。
事業所ごとに業者と直接ご相談ください。
★ 集団回収以外の段ボール回収は、1回3000円以上の手数料がかかります。段ボールは必ず束ねて出してください。

INFORMATION INFORMATION INFORMATION INFORMATION INFORMATION

「リサイクル教室」 出前講師を派遣します

リサイクル組合の組合員が、学校でリサイクルの話をする「出前講師」になったきっかけは、ある生徒さんがリサイクルデザインに載った、ある組合員の記事を読んで、「この人の話が聞きたい」と先生に希望したことから始まっています。リサイクル組合では、地域や学校などのご要望に応じ、出前講師を派遣します。ご希望の方はぜひご相談ください。

問合せ TEL 045-316-4050
出前講師派遣状況

日時	学校名	対象
2/18	港南区小坪小学校	5年生
3/11	港南区野庭小学校	4・5年生
3/20	都筑区荏田東第一小学校	3年生
3/20	磯子区山王台小学校	5年生
5/16	都筑区中川小学校	4年生

リサイクルデザインのビデオテープ 「未来を生み出すリサイクル」



このビデオは、暮らしの中から出る資源物（古紙・空き缶等）がどのようにリサイクルされているかを、一人の小学生の目を通して見ていく様子が描かれています。ぜひリサイクルの学習等にご活用ください。

●ビデオテープ貸し出し、ご購入の
お問い合わせは下記まで。
横浜市資源リサイクル事業協同組合
TEL 045-316-4050
FAX 045-316-6050

編集室から

このリサイクルデザインが出てくるころには梅雨明けしていることですが、今月号にも掲載されていますが、第1回目の「サポートミミーティング」が無事終了しました。リサイクルデザインを愛読していただいている読者の方々と同じテーブルで話をすることに、スタッフ一同直前までうまくまとまるかどうか不安ではありましたが、実際始めてみるとそんな心配はすぐ吹き飛び、皆さんの活発な意見にうれしい悲鳴を挙げてしまいました。次回も是非次回参加してください。

FAX 045-316-5122

Eメール mail@recycledesign.or.jp

月刊リサイクルデザインは次の場所に置いてあります

●マリンスポーツデスク・リップル（鶴見カミン5F）●グリーンバザール（南区六ツ川）●ブックショップふれあい戸塚店（ダイエー横）・大船店
●地酒 篠原屋（港北区篠原）●エコロジーショップエッセンス（中区麦田町）●神奈川銀行瀬谷支店・本牧支店●安田火災海上保険横浜支店●東京ガス環境エネルギー館●マルエツ井土ヶ谷店・大倉山店●相鉄ローゼン三ツ境店・港南台店・大口店・二俣川店・緑園都市店・いずみ中央店・山手台店・白根店食品館・モザイク港北店・六ツ川店・釜利谷店・和田町店・左近山店・瀬谷店・いずみ野店・弥生台店・笹山店・東寺尾店・富岡店・ひかりが丘店・希望ヶ丘店・並木店・南まきが原店・中田店・南瀬谷店・ひなた山店・磯子店・オルト新子安●マイカル天王町サティ店●ジャスコ駒岡店・金沢シーサイド店●自然彩食（名古屋）●まじょらむ（港北区綱島）●オーガニックスペースかれん（港北区大倉山）●カフェ杜（港北区日吉）●さままま（緑区霧が丘）●うどんカフェ（青葉区こどもの国）●横浜国際ホテル（西区南幸）●さくら歯科クリニック（オーケー港北ニュータウン店2F）●リサイクルショップ「トロワの森」●横浜国立大学生協同組合大学館店・工学部店●神奈川県中小企業団体中央会（中区尾上町）

月刊 リサイクルデザイン No.107

発行日：2003年7月25日

発行所：横浜市資源リサイクル事業協同組合

発行人：秋元康男

〒220-0005

編集人：工藤健一

横浜市西区南幸2丁目16番22号 金属ビル3階

編集室：戸川孝則・竹澤留美

TEL 045-316-4050/FAX 045-316-5122

広報企画委員会：山岡秀明・武松昭男・松澤嘉継

杉山宜利・芦澤博志・宗村隆寛

栗原清剛・大内 敦

制作：(企)エコ・アド

印刷：オリジナルプランニング

月刊リサイクルデザインは新聞古紙100%の再生紙と環境にやさしいSOY INK (大豆インク) を使用しています。

